

全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年11月14日

予報期間：11月16日～12月15日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

・西日本では期間のはじめ、沖縄・奄美では期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
北・東日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報

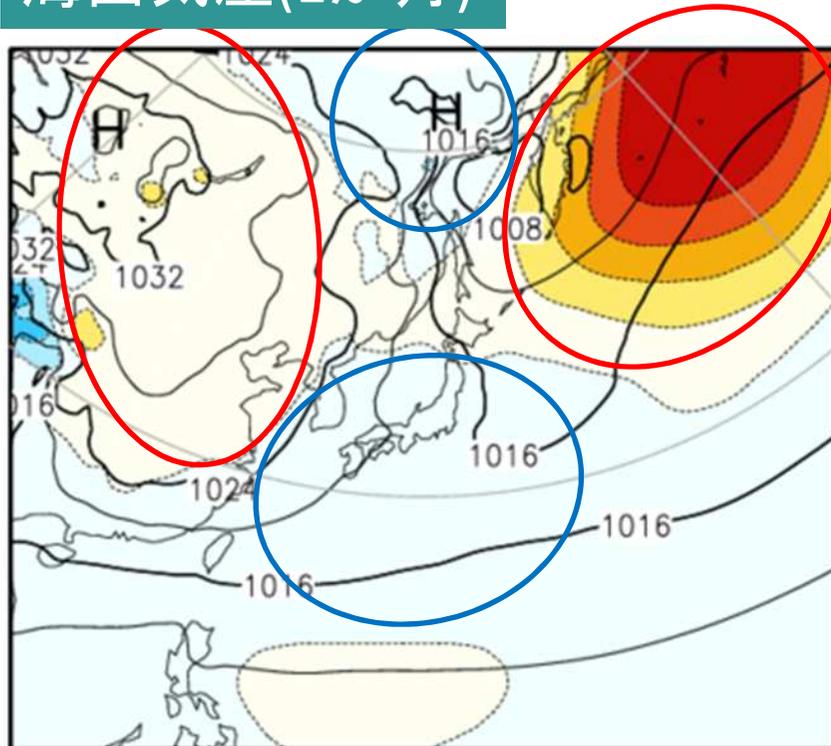
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	20:30:50	40:30:30	30:30:40	
	太平洋側		30:30:40	40:40:20	
東日本	日本海側	10:30:60	40:40:20	30:30:40	
	太平洋側		30:30:40	40:40:20	
西日本	日本海側	10:20:70	40:30:30	30:40:30	
	太平洋側		30:30:40	40:40:20	
沖縄・奄美		10:20:70	20:30:50	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:30:50	20:30:50	20:40:40
東日本	10:30:60	10:30:60	20:40:40
西日本	10:20:70	10:30:60	20:30:50
沖縄・奄美	10:20:70	10:20:70	20:30:50

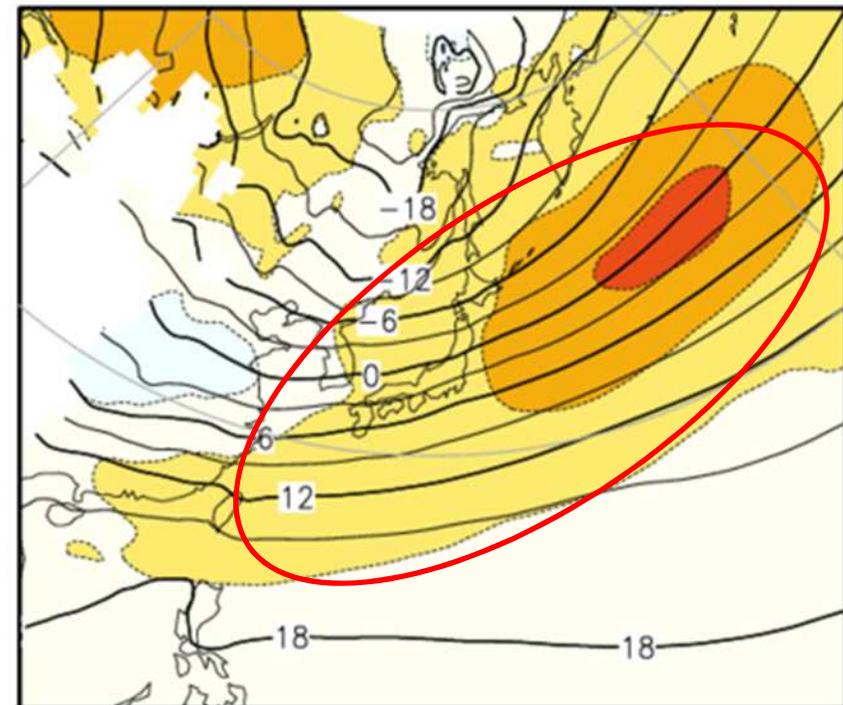
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、寒気の影響を受ける時期もありますが、期間を通すと寒気の影響を受けにくいいため全国的に高いでしょう。特に、西日本では期間のはじめ、沖縄・奄美では期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・向こう1か月の降水量は、低気圧や寒気の影響を受けにくいいため、東日本日本海側では平年並か少ないでしょう。一方、低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、沖縄・奄美では多いでしょう。
- ・向こう1か月の日照時間は、低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、北・東・西日本太平洋側では平年並か少ないでしょう。

海面気圧(1か月)



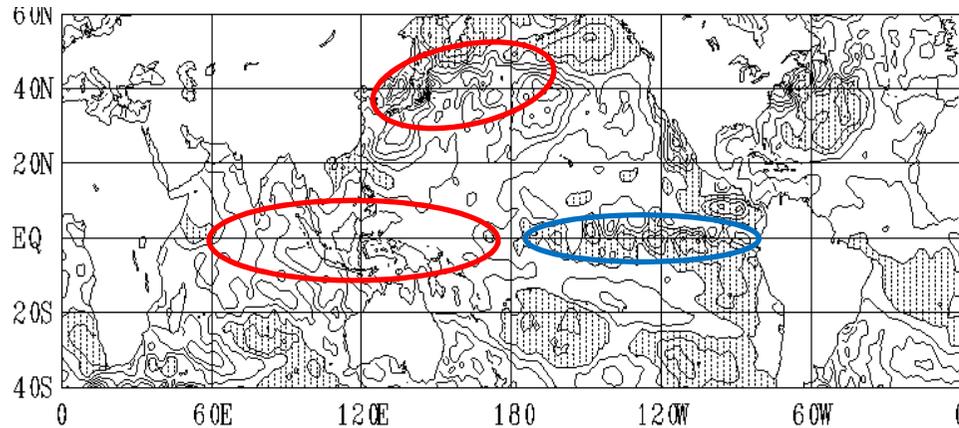
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、オホーツク海の低気圧周辺は平年より気圧が高く、大陸の高気圧は気圧は高いものの偏差は小さいことから、西高東低の気圧配置は一時的で弱く、日本付近は寒気の影響を受けにくいでしょう。また、本州以南では平年に比べ気圧が低く、太平洋側を中心に低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込みです。

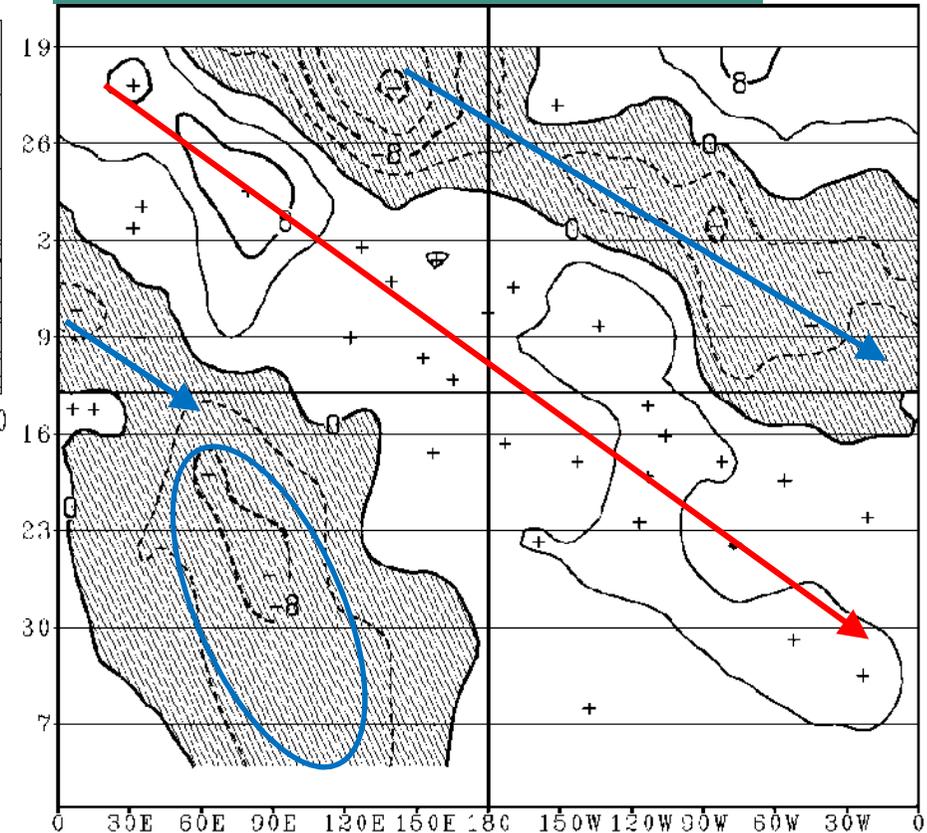
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高く、寒気の影響を受けにくいでしょう。

SST偏差



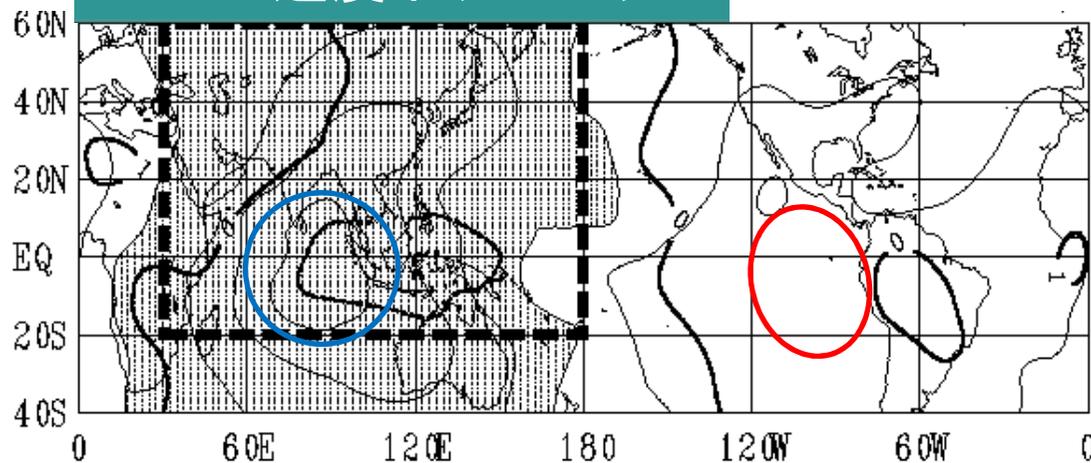
熱帯域では、インド洋から日付変更線付近にかけて正偏差、太平洋赤道域中部から東部にかけて負偏差。日本周辺海域や日本の東で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



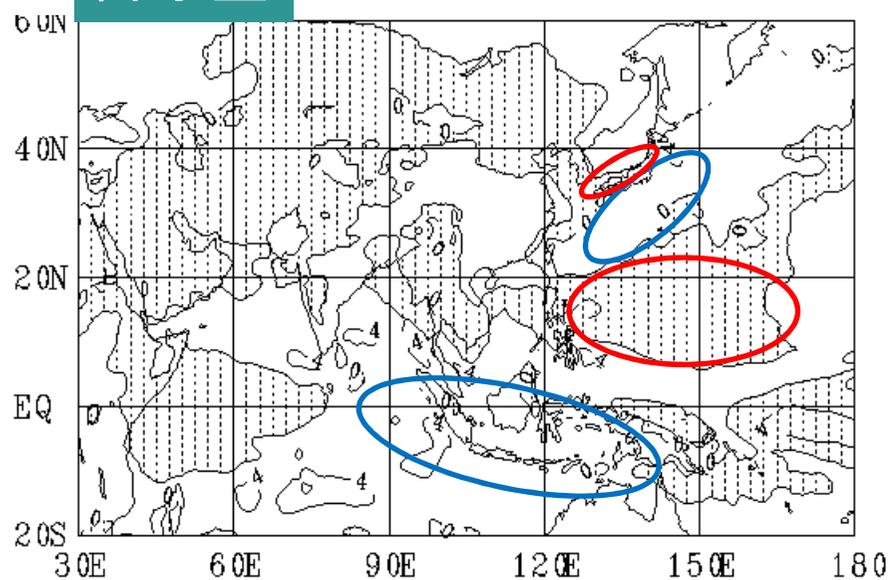
実況でアフリカ大陸からインド洋付近にある赤道季節内変動(MJO)に伴う対流活動活発域は、予測ではインド洋をゆっくり東進、期間後半にはインド洋東部からインドネシア付近が活発となる。モデルは活発域がインド洋で停滞しやすい誤差傾向があり、予報後半にはその誤差傾向の循環場への影響への留意が必要。

200hPa速度ポテンシャル



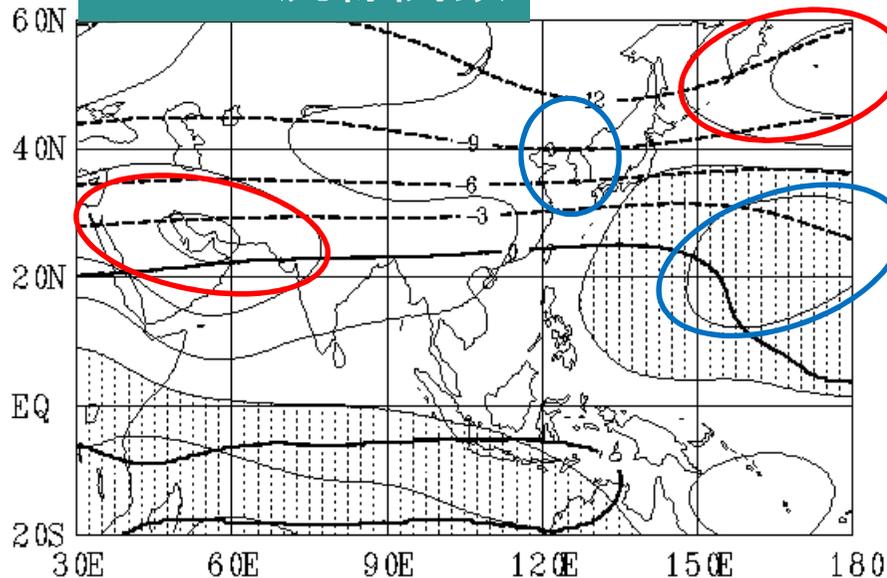
インド洋付近で上層発散偏差、太平洋東部で上層収束偏差。

降水量



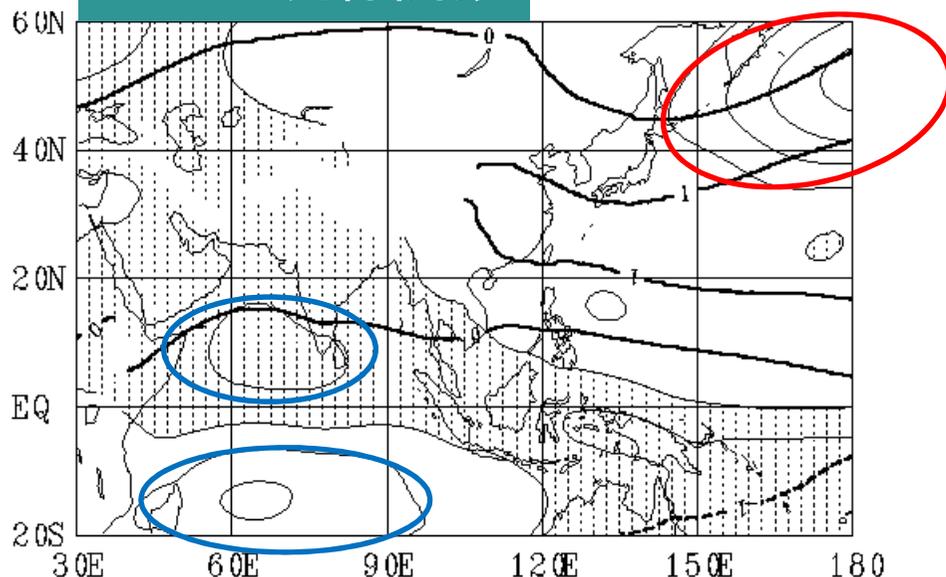
インド洋東部からインドネシア付近にかけてと、日本の南や日本の東で多雨偏差。フィリピン付近と北・東・西日本日本海側で少雨偏差。

200hPa流線関数



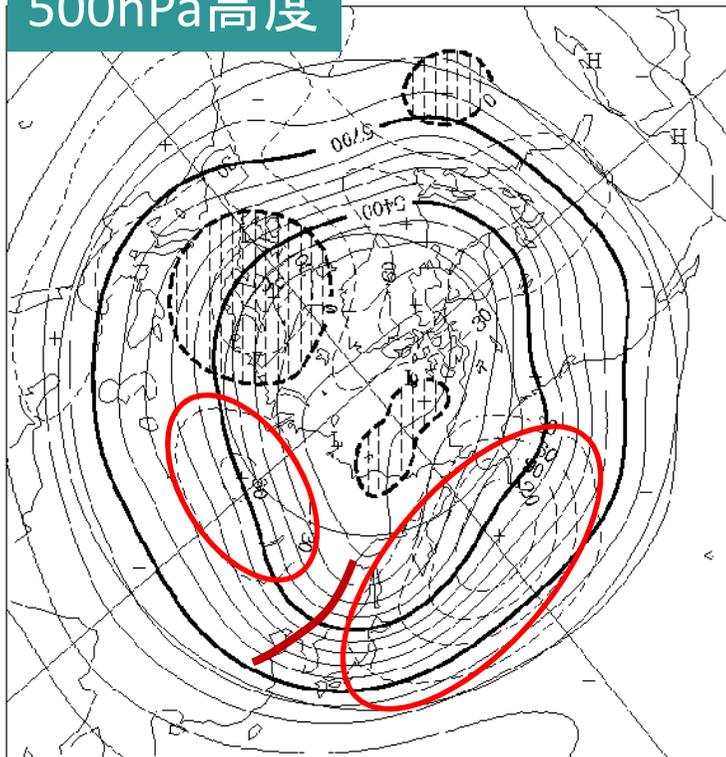
中緯度帯には波列パターンが見られ、朝鮮半島付近に相対的な低気圧性循環偏差、千島近海から東は高気圧性循環偏差。
波列パターンの上流にある中東付近の高気圧性循環偏差には、インド洋付近の対流活発の影響もあると考えられる。

850hPa流線関数



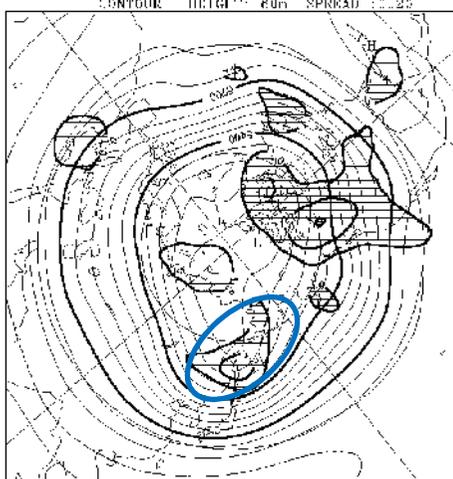
インド洋付近の対流活発の影響でインド洋では南北対の低気圧性循環偏差。
千島近海から日付変更線にかけて高気圧性循環偏差。

500hPa高度

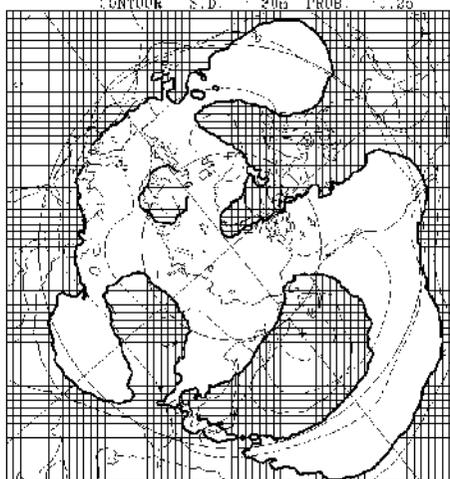


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.



CONTOUR HEIGHT: 600m SPREAD: 0.25



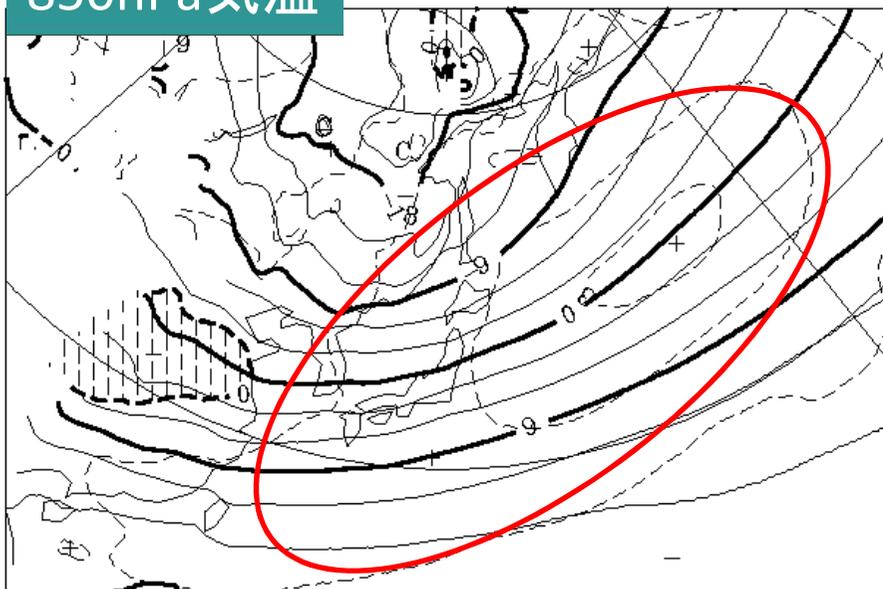
CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25

北半球では波列パターンが明瞭で、日本付近は北太平洋にかけての正偏差に覆われる。中国東北区付近はトラフとなっており、日本付近は西谷。北米大陸付近の正偏差域が強まり、そこから波束伝播があり、日本付近の正偏差やトラフを維持。

日本付近はおおむね正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

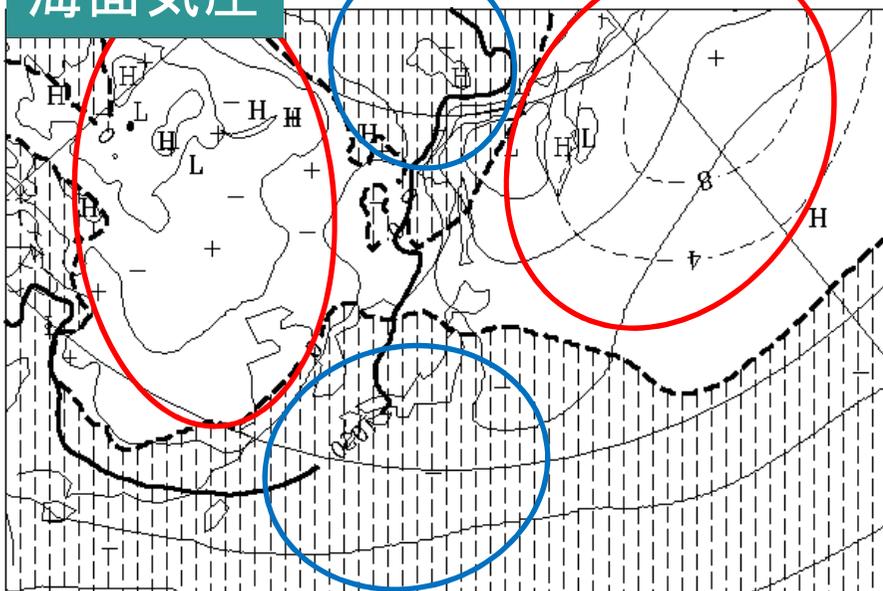
オホーツク海付近などにスプレッドの大きい領域が予想され、中緯度帯の波列パターンなどの予測に不確実性がある。

850hPa気温



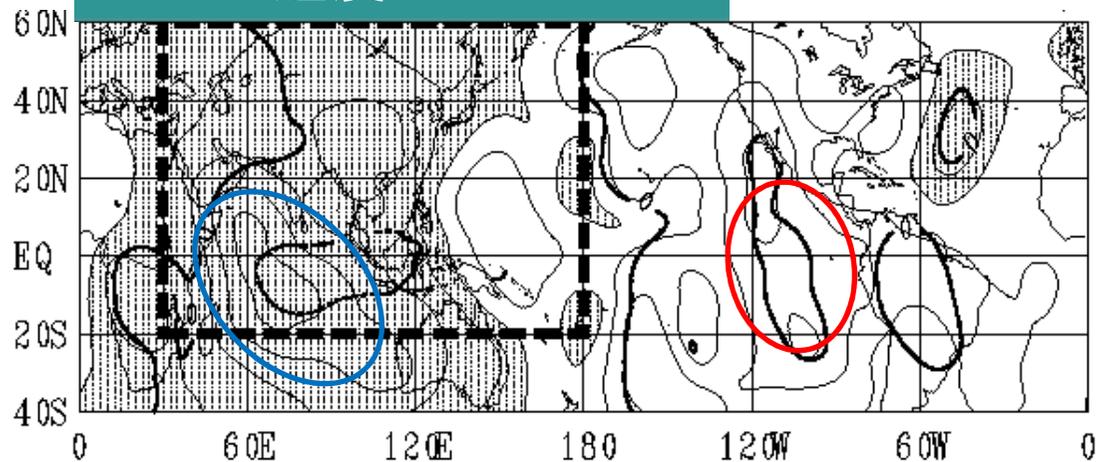
日本付近は広く高温偏差に覆われる。
大陸は高温偏差で寒気が弱い。

海面気圧



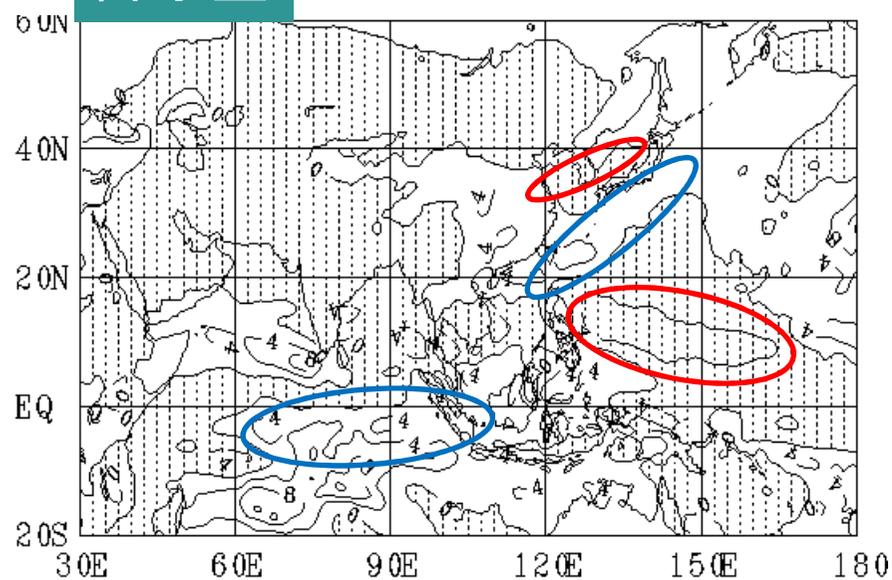
オホーツク海の低気圧周辺は、西側では負偏差だがその東は正偏差で、低気圧の発達はまだ予測されず、大陸の高気圧も日本付近への張り出しが弱いことから、日本付近は西高東低の気圧配置が弱い。このため、一時的な寒気の流れ込みはあるものの、期間を通すと気温が高い見込み。
また、本州以南では負偏差で、太平洋側を中心に低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込み。

200hPa速度ポテンシャル



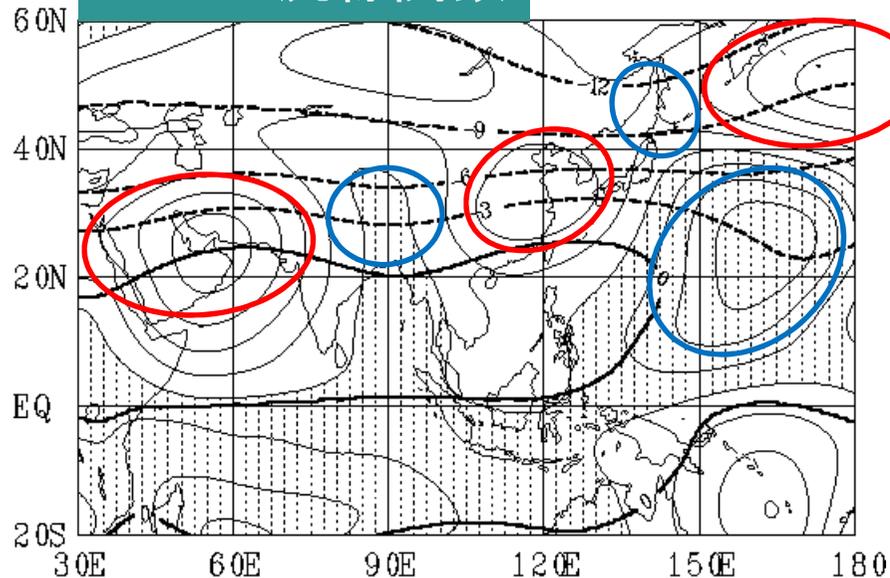
インド洋付近で上層発散偏差、太平洋東部で上層収束偏差。

降水量



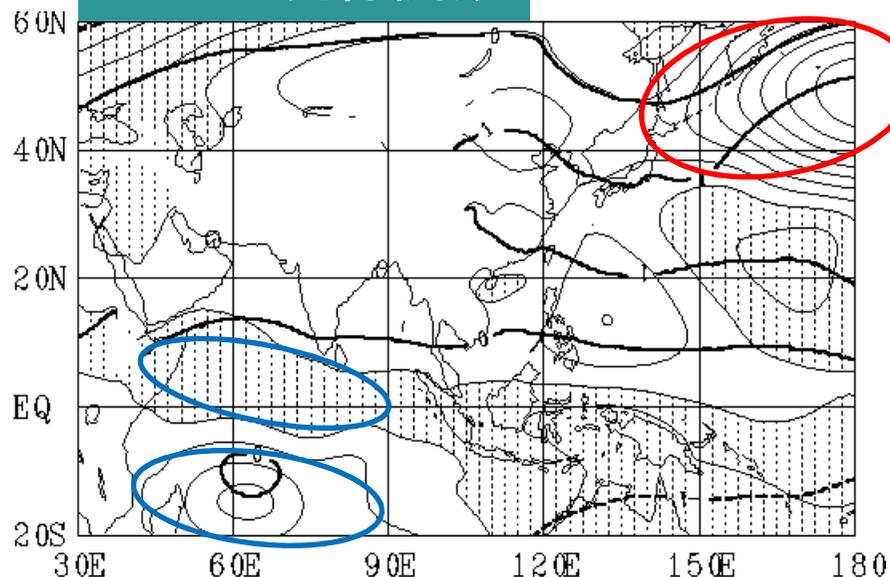
インド洋赤道域と日本の南で多雨偏差。
フィリピンの東と日本海付近に少雨偏差。

200hPa流線関数



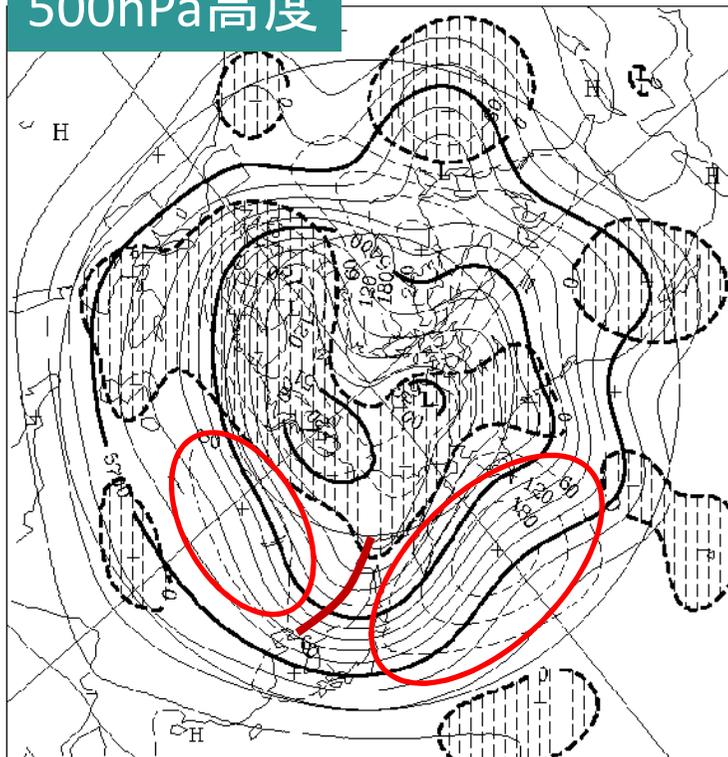
中緯度帯では波列パターンが見られ、華中から朝鮮半島付近にかけて高気圧性循環偏差。サハリン付近に相対的な低気圧性循環偏差。波列パターンの上流にあるアラビア海付近の高気圧性循環偏差にはインド洋の対流活発の影響もあると考えられる。日本の南東には低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



インド洋では南北対の低気圧性循環偏差。日本付近は北日本が高気圧性循環偏差に覆われる。このため、太平洋側を中心に湿った空気の影響を受ける時期がある。沖縄・奄美は熱帯じょう乱が影響する可能性がある。

500hPa高度

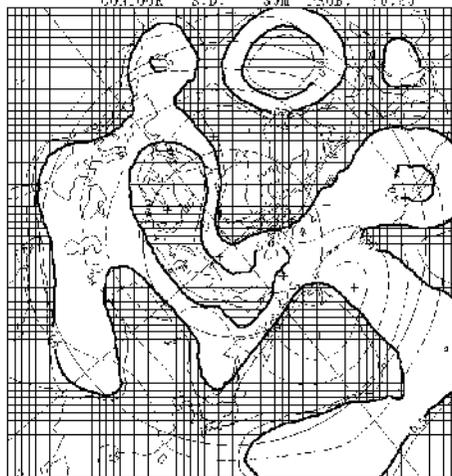
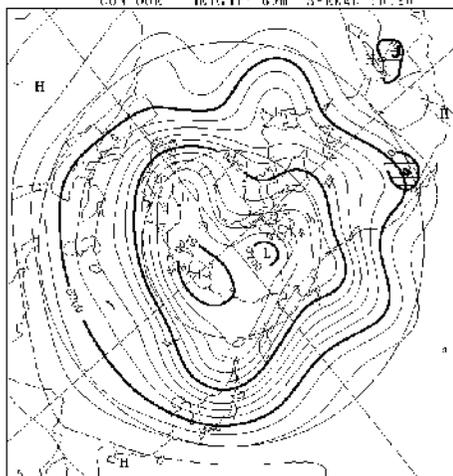


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

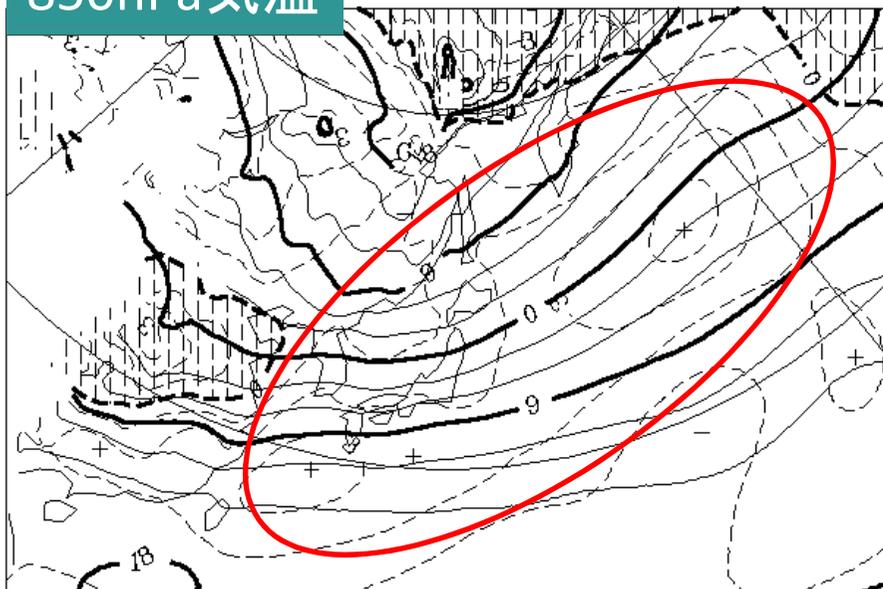
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



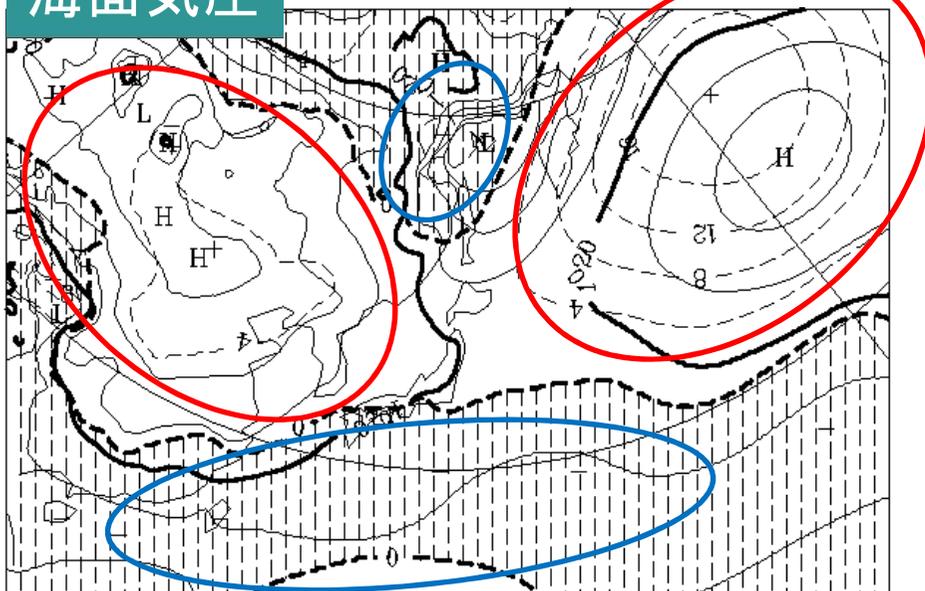
北半球では波列パターンが明瞭で、日本付近は北太平洋にかけての正偏差に覆われる。中国東北区付近はトラフとなっており、日本付近は西谷。日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われる。

海面気圧



オホーツク海付近の低気圧周辺の西側では負偏差だがその東は正偏差。低気圧の発達はまだ予測されず、日本の東は高気圧に覆われやすい。また、日本付近は大陸の高気圧に覆われやすく、日本付近は西高東低の気圧配置が弱く、気圧の谷となる。

日本の南では負偏差で、太平洋側を中心に低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込み。沖縄・奄美では熱帯じょう乱が影響する可能性がある。

想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
北・東日本太平洋側では、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

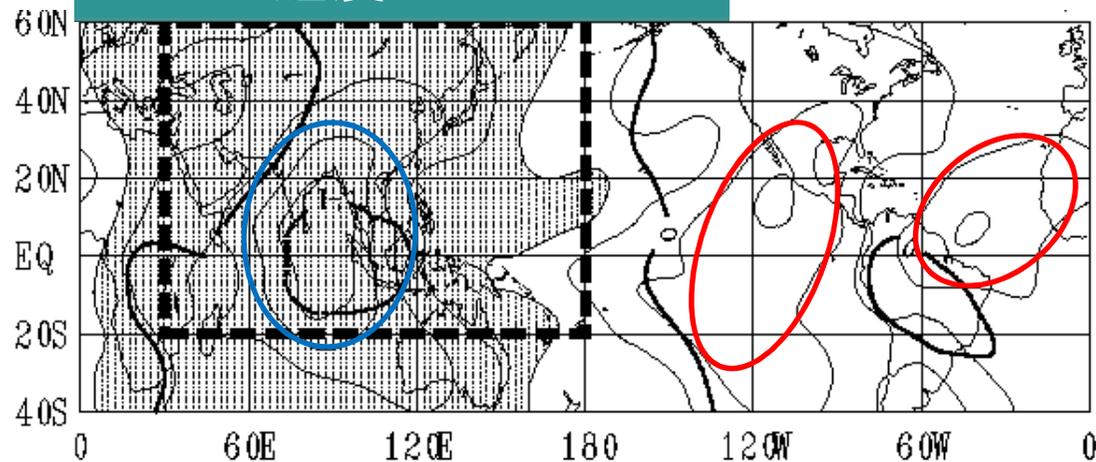
<気温>

・北・東・西日本では寒気の影響を受ける時期もあるが、全般に寒気の影響を受けにくく、また、沖縄・奄美では暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温で、西日本と沖縄・奄美ではかなり高くなる。

<天候>

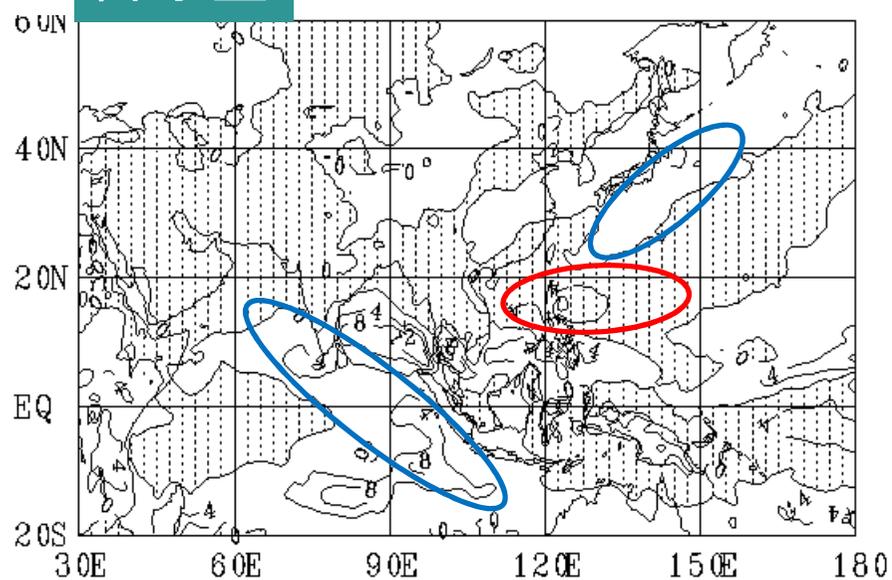
・北日本日本海側では、寒気の影響を受けにくいためやや少雨並照。東日本日本海側では少雨傾向並照。
・北・東・西日本太平洋側では、低気圧や湿った空気の影響でやや多雨寡照傾向。西日本日本海側では並雨やや寡照。
・沖縄・奄美では、湿った空気や熱帯じょう乱の影響で多雨寡照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



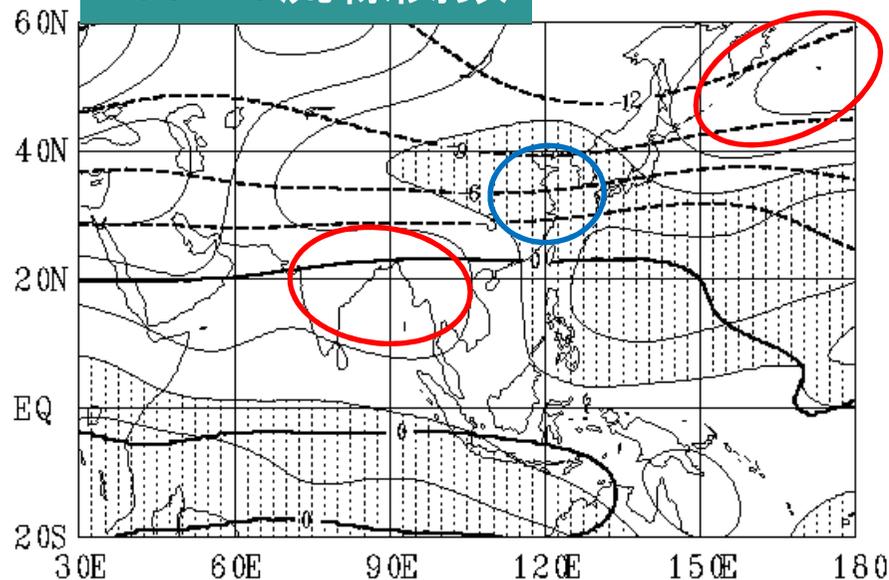
インド洋で上層発散偏差。太平洋東部と大西洋で上層収束偏差。

降水量



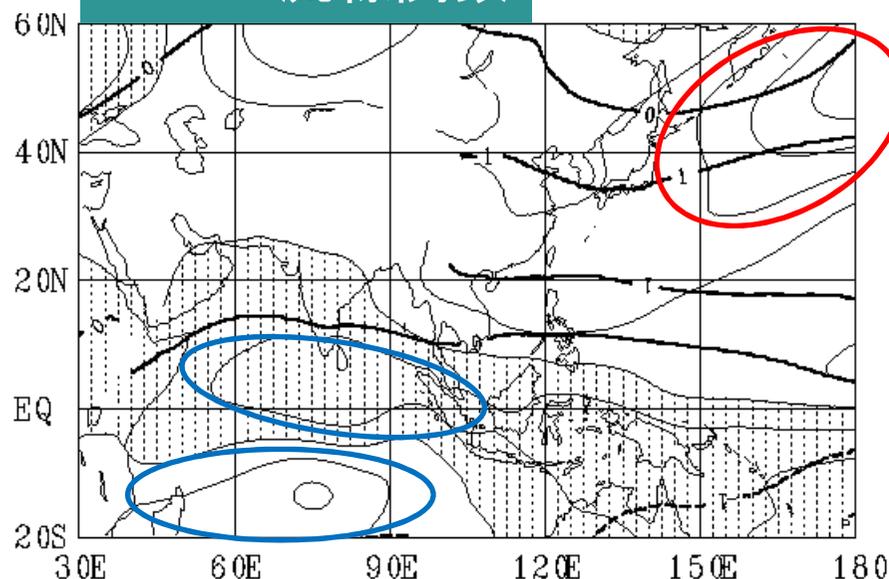
インド洋付近と日本の南から日本の東も多雨偏差が見られる。フィリピンの東では少雨偏差。

200hPa流線関数



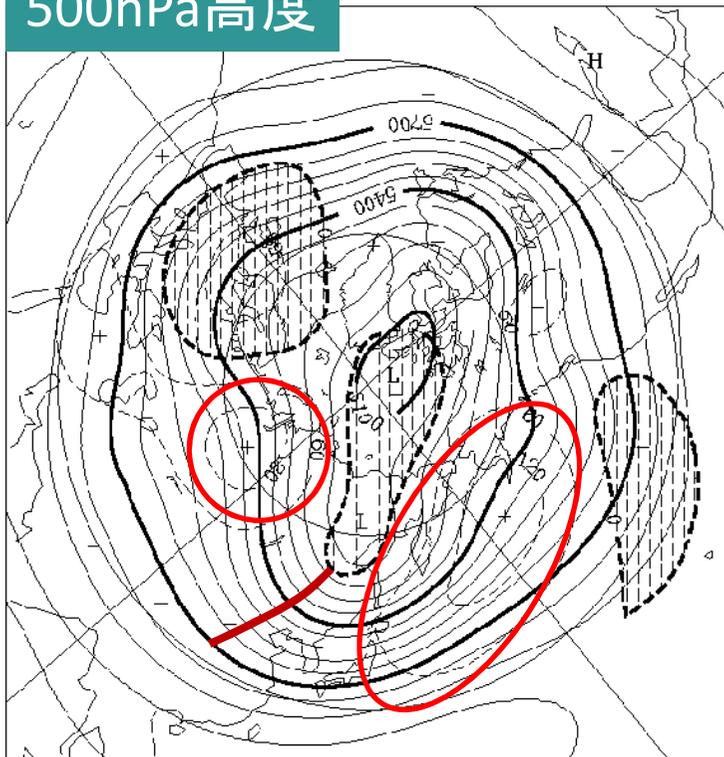
中緯度帯では波列パターンが見られ、日本付近は高気圧性循環偏差に覆われる。波列パターンの上流にあるベンガル湾付近の高気圧性循環偏差にはインド洋の対流活発の影響もあると考えられる。

850hPa流線関数



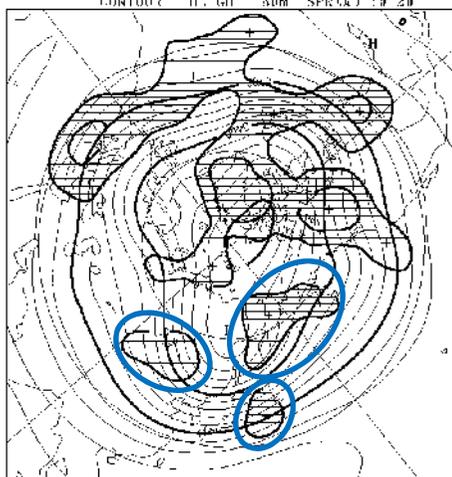
インド洋では南北対の低気圧性循環偏差。日本付近は高気圧性循環偏差。

500hPa高度

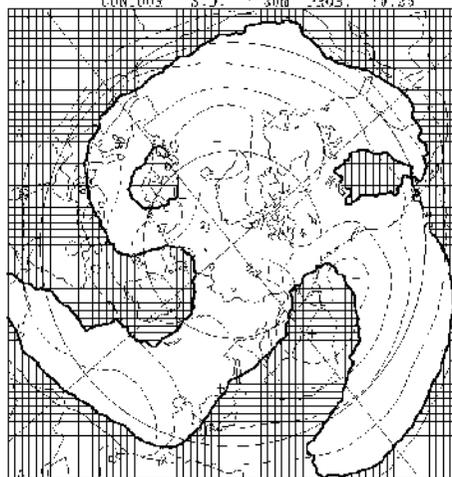


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. AKOMA.Y AND S.D.



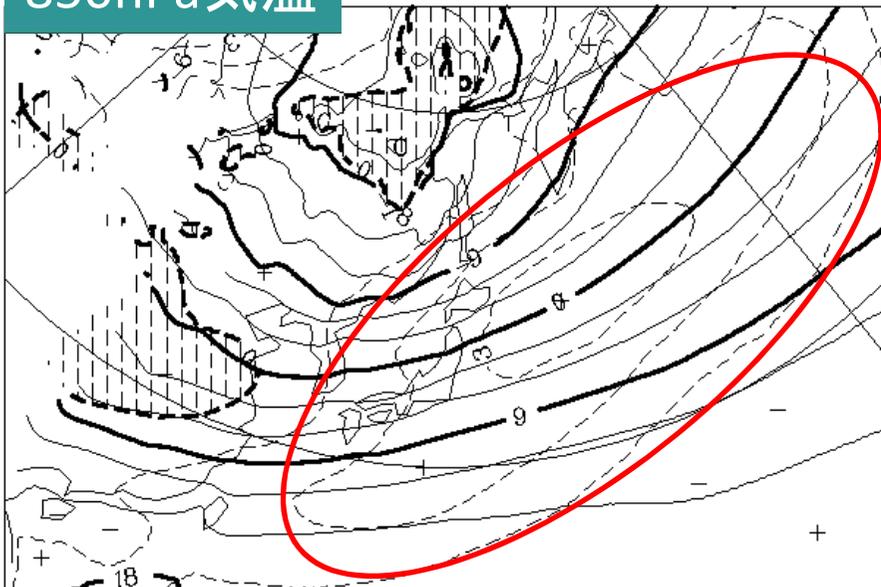
CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20



CONTOUR S.D. 300 200 0.20

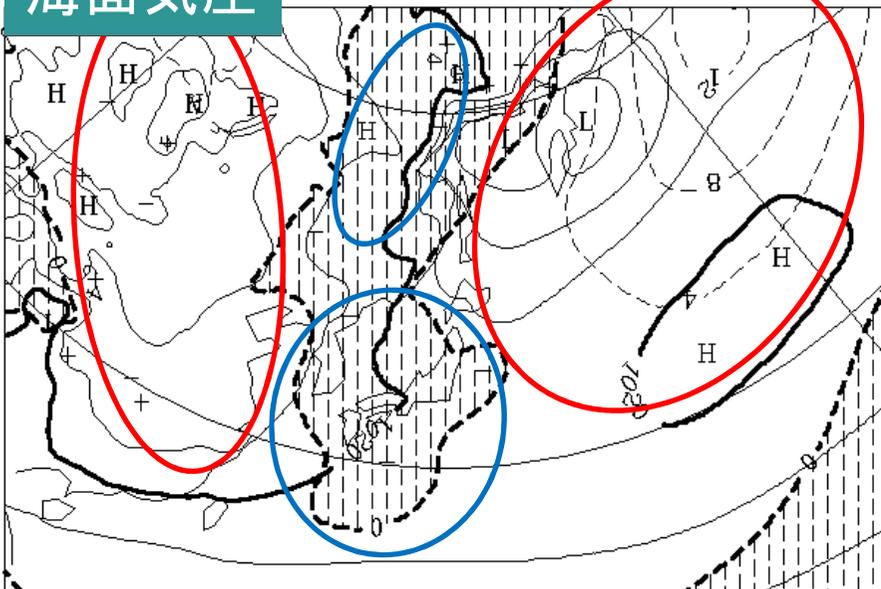
北半球では波列パターンが明瞭で、日本付近は北太平洋にかけての正偏差に覆われる。中国東北区付近はトラフとなっており、日本付近は西谷。日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。オホーツク海付近やバイカル湖付近、日本の東などにスプレッドの大きい領域が予想され、中緯度帯の波列パターンなどの予測に不確実性がある。

850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われる。

海面気圧



オホーツク海の低気圧付近の西側では負偏差だがその東は正偏差。低気圧の発達はまだ予測されず、日本のはるか東は高気圧に覆われやすい。日本付近は西高東低の気圧配置が弱く、日本付近は太平洋側を中心に気圧の谷となる。本州付近から日本の南は負偏差で、太平洋側を中心に低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込み。

想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

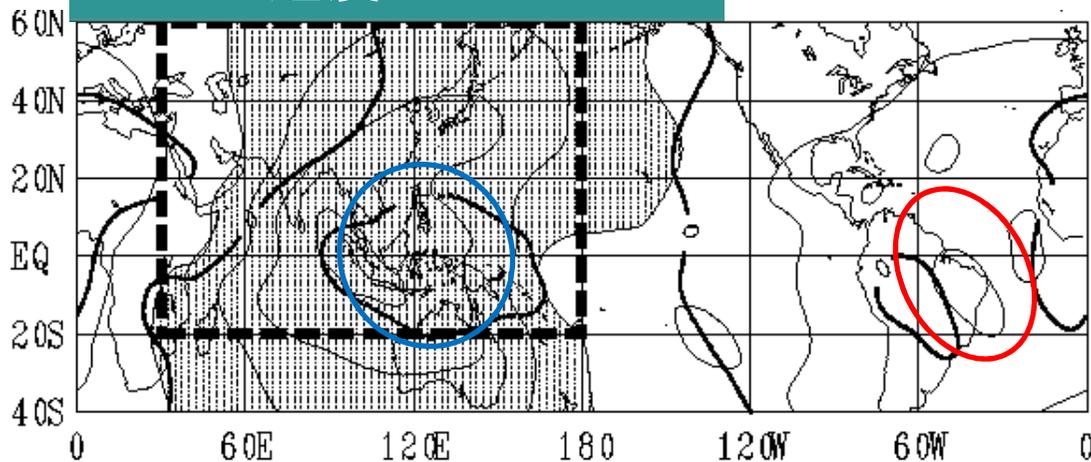
<気温>

・北・東・西日本では寒気の影響を受ける時期もあるが、全般に寒気の影響を受けにくく、また、沖縄・奄美では暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温で、沖縄・奄美ではかなり高くなる。

<天候>

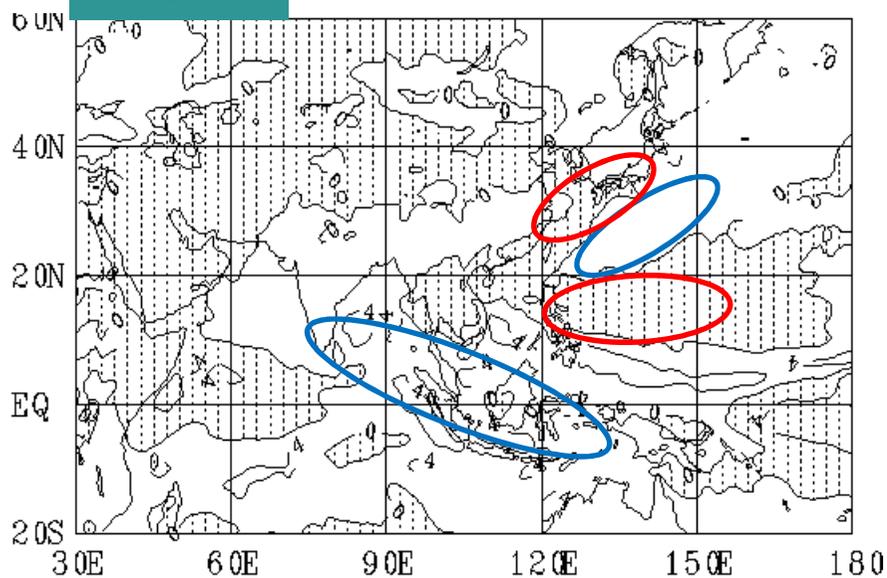
・北日本日本海側では、寒気の影響を受けにくいいため、並雨やや多照。東日本日本海側では、やや少雨並照。
・西日本日本海側と沖縄・奄美では、並雨並照。
・北・東・西日本太平洋側では、低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、やや多雨やや寡照。

200hPa速度ポテンシャル



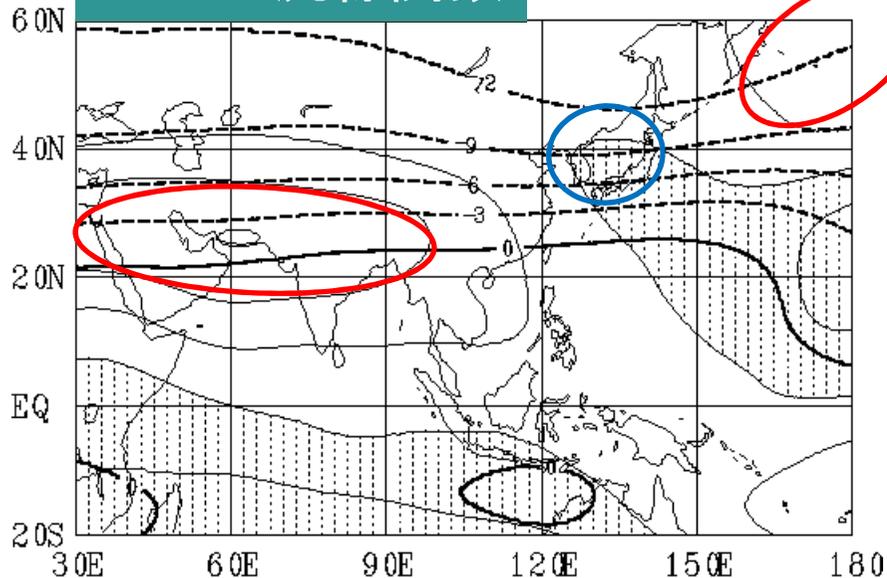
インド洋東部からインドネシア付近で上層発散偏差。モデルのインド洋で対流活動活発域の停滞しやすい誤差傾向を考慮。
アメリカ大陸付近で上層収束偏差。

降水量



インド洋東部からインドネシア付近にかけて多雨偏差、日本の南で多雨偏差。フィリピンの東で少雨偏差。
日本付近は少雨偏差だが、偏差は小さい。

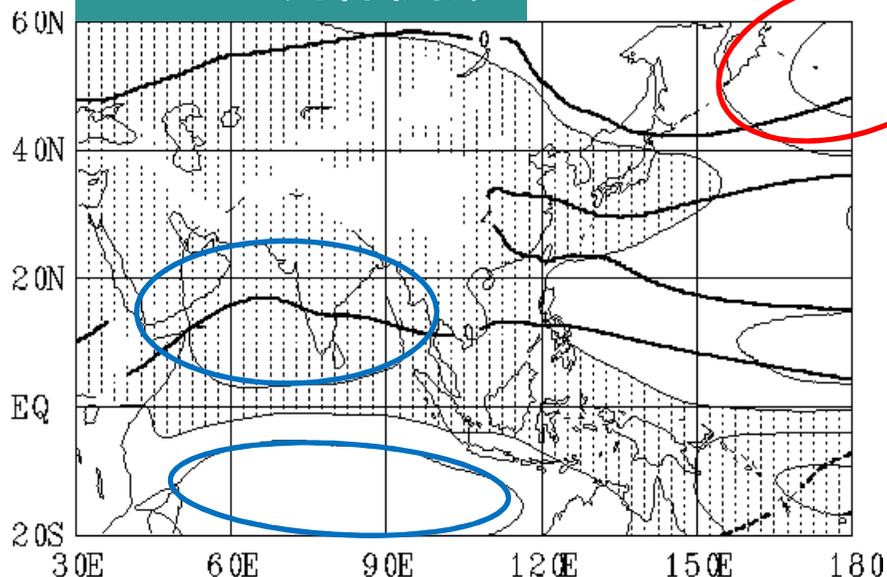
200hPa流線関数



中東から南アジア付近と日本のはるか東で高気圧性循環偏差。日本海付近で低気圧性循環偏差。

中緯度帯の波列パターンの予測などには不確実性がある。

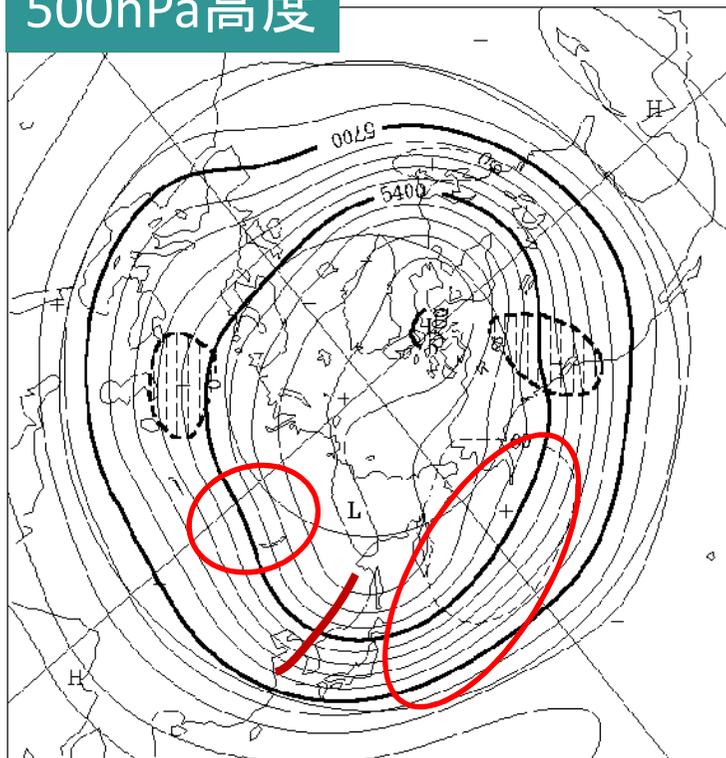
850hPa流線関数



インド洋では南北対の低気圧性循環偏差。

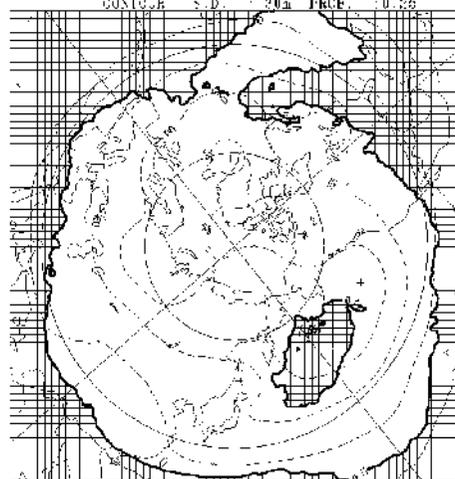
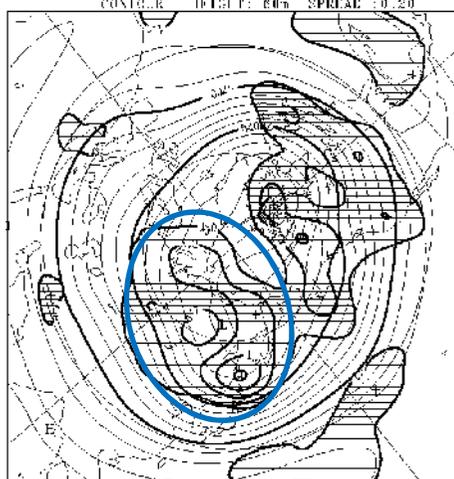
日本のはるか東では高気圧性循環偏差。日本付近は偏差が小さい。

500hPa高度



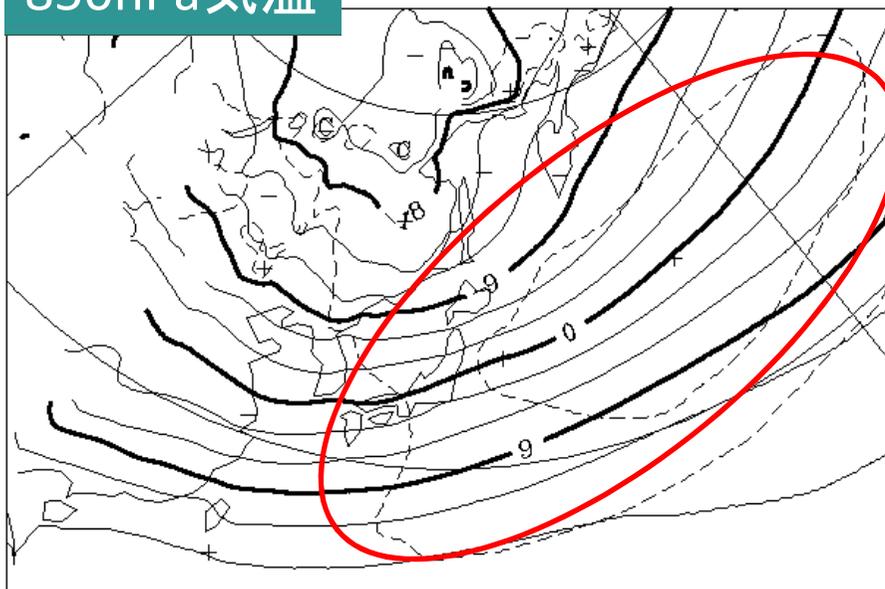
500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.



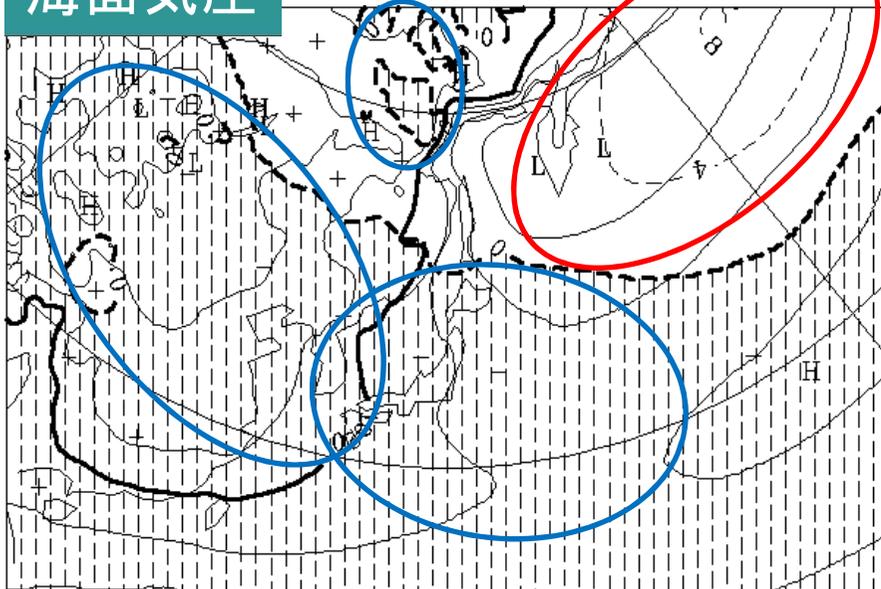
北半球では波列パターンが明瞭で、日本の東から北太平洋にかけて正偏差。沿海州から朝鮮半島付近はトラフとなっており、日本付近は西谷。
日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われなくなる。
インド洋付近の熱帯対流活動の予測の不確実性もあり、オホーツク海付近や大陸などでスプレッドの大きい領域が予想され、中緯度帯の波列パターンなどの予測に不確実性がある。

850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われる。
中緯度帯の波列パターンなどの予測やインド洋付近の熱帯の対流活動の予測に不確実性があることから、高温傾向はやや控える。

海面気圧



オホーツク海の低気圧周辺の東は正偏差。大陸の高気圧は負偏差で日本付近も負偏差。低気圧の発達はまだ予測されておらず、高気圧の張り出しも弱いことから、日本付近は西高東低の気圧配置が弱い。

想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

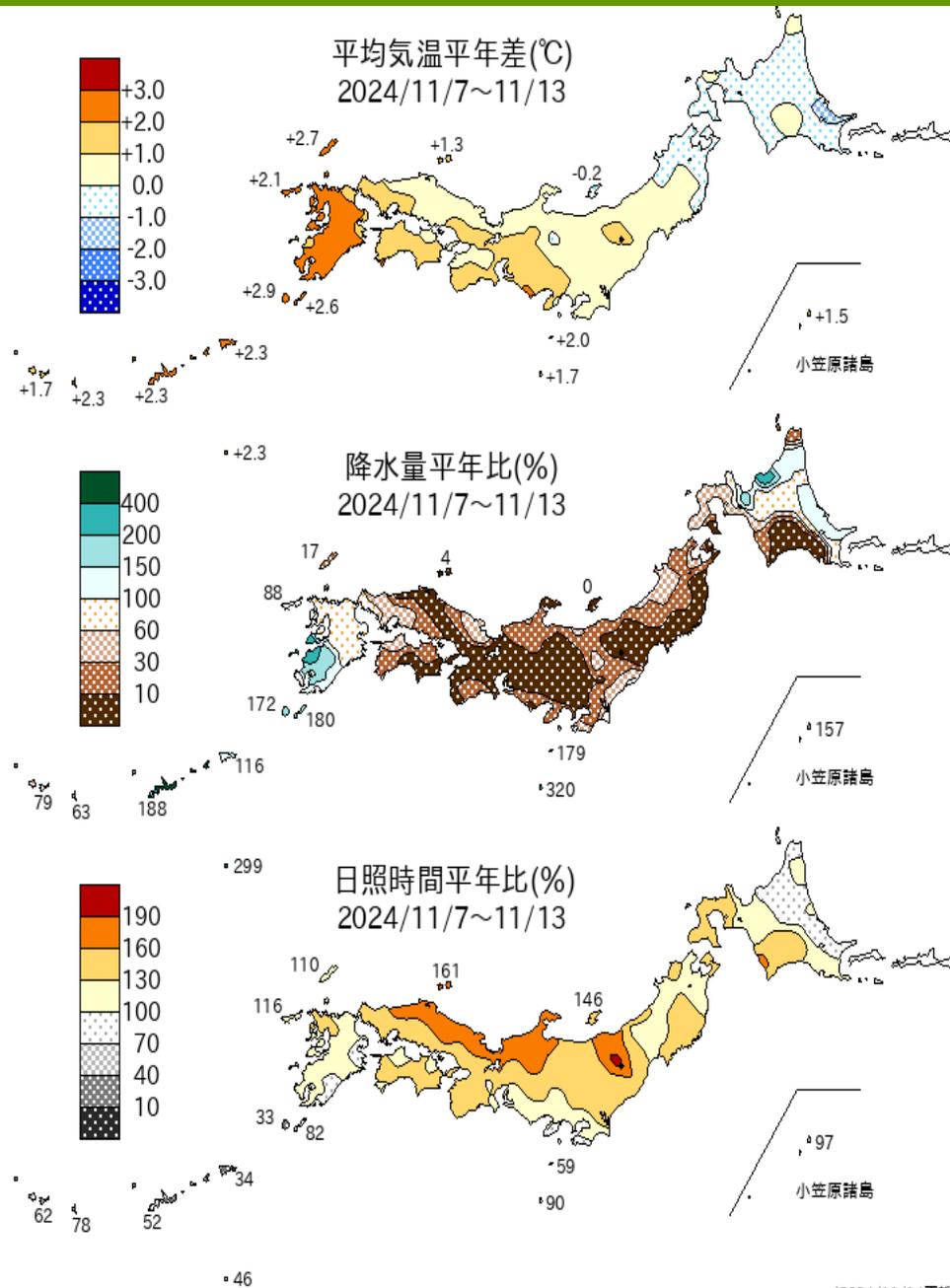
<気温>

・全国的に寒気の影響を受ける時期もあるが、全般に寒気の影響を受けにくいいため、北・東日本では高温傾向。西日本と沖縄・奄美では高温。

<天候>

・北・東・西日本日本海側では、寒気の影響を受けにくいいため、やや少雨やや多照。
・北・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、並雨並照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(11月7日~11月13日)は、移動性高気圧に覆われ晴れた所が多くなりましたが、低気圧や湿った空気の影響で九州から沖縄にかけて曇りや雨、低気圧や寒気の影響で北海道オホーツク海側や日本海側で曇りや雨または雪の降った所がありました。沖縄・奄美では8日から10日を中心に大雨となり、奄美地方では大雨特別警報が発表されるなど11月として記録的な大雨となりました。

気温は、東・西日本と沖縄・奄美では、寒気の影響が弱く暖かい空気に覆われたため平年より高くなりましたが、北日本では西高東低の気圧配置になり寒気の影響を受けた時期があったため、平年に比べ低くなりました。